

いちのみやの芸術文化

- 特集「日露戦争と郷土の兵士たち」
- 加入団体の紹介
- 第69回一宮市美術展入賞者
- これからの催し
- 文化講演会（報告）

明治三十七八年戦役記念碑

2011.12

第19号

一宮市芸術文化協会

日露戦争記念碑(木曾川町)

「二宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

日露戦争と郷土の兵士たち

▼日露戦争

明治三十七年（一九〇四）二月に発生し、翌年九月に終わった日露戦争は日本とロシアが朝鮮半島の利権を巡って衝突した戦争です。中国東北部が戦場となりました。

日露戦争といえば、東郷平八郎、児玉源太郎、乃木希典等、戦争を指揮した司令官や参謀たちを思い起こす人も多いと思います。今回は私たちが住む郷土から出征した兵士たちに視点をあてて、日露戦争を見てみましょう。

日露戦争は総力戦でした。現一宮市域からも多くの兵士が出征し、戦死しました。当時、日本陸軍は常備軍として日本国内に近衛師団と十二個の師団を置いていました。師団司令部は日本の主要都市に置かれており、東海地方では名古屋に第三師団が置か



れていました。さらに一つの師団につき、四つの連隊が置かれていました。第三師団の下には第八連隊（名古屋）第十八連隊（豊橋）第三十二連隊（守山）第三十四連隊（静岡）があり、一宮市域出身の兵士の多くは名古屋の第六連隊に配属されました。

▼第三師団第六連隊

第三師団は日本軍の主力部隊として日露戦争の主要な戦いに多く参加し、開戦後、南山（五月）、得利寺（六月）、大石橋（七月）、遼陽（八月）、沙河（十月）、黒溝台（翌三十八年一月）、奉天（三月）等、激戦地を転戦していました。私たちの住む郷土から出征した兵士はこの激戦地の中にいました。

昭和の合併以前の自治体史等から現一宮市域出身の兵士の戦死者数を表1にしました。表にはない他の地区でも相当数の戦死

▼日露戦争の激戦地図



▼表1

旧町村名(日露戦争当時の町村)	戦死者数	出典
旧一宮市域(一宮町)	49名	『一宮市史』下巻
旧朝日村域(祐賀村、上祖父江村、明地村、玉野村、大徳村)	31名	『朝日村誌稿』
旧西成村域(浅淵村、赤羽村、穂派村、時之島村、瀬部村)	27名	『一宮市西成町史』
旧起町域(起町、小信中島村、三条村、大徳村)	23名	『起町史』上巻
旧萩原町域(萩原町、中島村、新明村、日光村)	19名	『萩原町誌』
旧千秋村域(幼村、豊富村、青木村、浮野村)	16名	『千秋村史』
旧木曾川町域(黒田町、里小牧村、玉ノ井村)	13名	『木曾川町史』
旧北方村域(北方村、黒田町)	13名	『葉栗郡紀要』
旧葉栗村域(大田島村、光明寺村、佐千原村)	13名	同上
旧浅井町域(浅井町、瑞穂村)	9名	『一宮市浅井町史』
旧奥町域(奥町)	8名	『奥町誌』
旧今伊勢町域(馬寄村、神戸村、開明村)	8名	『一宮市今伊勢町史』

*戦死者には戦病死者も含まれます。
 *旧町村は自治体史刊行当時の自治体名です。
 *日露戦争の翌年、明治の大合併により現一宮市域の町村は44町村から15町村になりました。一部の町村は分町・分村合併となったため、()の一部に同じ町村が記してあります。

者がいたと思われまます。

▼奉天の戦い

写真1の手紙は戦地から玉野地区の兵士の親に宛てられた手紙の一部で、連続する

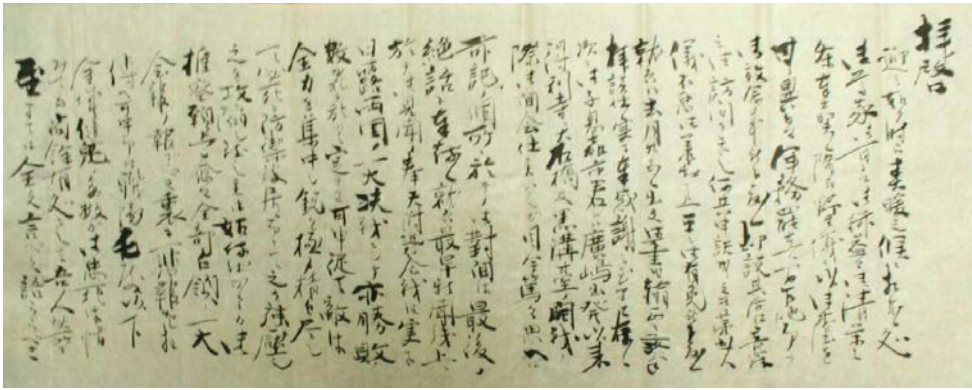


写真1・戦地からの書簡

(一宮市尾西歴史民俗資料館蔵)

戦闘の様子や、奉天の戦いで子息が戦死したことを書き記しています。この奉天の戦いは中国東北部の奉天（現在の瀋陽）において、明治三十八年二月末〜三月十日に行われた戦いです。日本軍は約二十五万、ロシア軍約三十二万の大

写真2・軍隊手帳

(一宮市尾西歴史民俗資料館蔵)



奉天の戦いで戦死した日本兵は一万五千人以上になりますが、特に戦いが激しかったのが三月六日・七日の李官堡りかんぼでの戦いでした。第六連隊がその李官堡に布陣、連隊長も負傷し、戦死者は八〇四名、負傷者は約千百名になりました。『歩兵第八聯隊歴史』には無事な者は「僅かに九名に過ぎない」とも記されています。市域から出征した兵士の戦死者の多くは李官堡で死亡しています。例えば、西成地区では二十七名の戦死者がいますが、その内、十五名が李官堡で戦死しています。

写真2の軍隊手帳は起地区から出征した兵士

軍が衝突する戦いで、戦争の雌雄を決する大決戦でした。

総司令官の大山巖おおやま いわおはこの奉天の戦いを日露戦争の「関ヶ原」と称して各司令官に訓示しています。

のものです。開戦以後、多くの戦いに参加し、奉天の戦いで負傷したものの、無事に帰国しました。

▼身近な石碑から

日本は奉天の戦いと五月の日本海海戦に勝利しましたが、指揮官を含め多くの戦死者を出し、弾薬の欠乏も激しく、これ以上の戦いは無理でした。さらに、ロシアも国内で革命が発生していました。明治三十八年九月に講和となり、日露戦争は終結しました。

現在、市内各地に表紙写真のような日露戦争関係の忠魂碑、記念碑、従軍兵士の墓があります。みなさんのお住まいの地区やその周辺にもあると思います。

その石碑の裏側には戦死者や従軍兵士の氏名が記されています。そこで、自分の何代か前の先祖の名前が彫られているかもしません。日露戦争を映画やドラマではなく、もっと身近な歴史的資料から学んでみてはいかがでしょうか。

(尾西歴史民俗資料館 学芸員 宮川充史)

【参考文献】

歩八史編集委員会編『歩兵第六聯隊歴史』(昭和四十三年)

私達は、アートの花に魅せられて、より美しい物を自分の手で作りたいと思うようになり、アートフラワーを学び始めました。

少しでも本物の花に近づける様に色の出し方、花全体の型などを学び一生懸命作っています。

最初は思いどおりに出来ず、つぼみ1個を作るのがこんなに大変なのかと挫折しかけることも。

気力、体力、根気が必要で細かな作業の連続です。だからこそ作品が完成した時の喜びはひとしおで、とても愛着が生まれます。更にその喜びを良き師や良き仲間達と共有することで、何事にも代え難い充実感を得ることが出来ます。

また、作品を作り上げるだけではなく、教室が「おしゃべりサロン」に早変わりして、気の合う仲間達と様々な話題について気の向くままに楽しく話をすることもあり、これもアートフラワーを学ぶことによって得ることができた大切な時間

なります。

お稽古は、毎月第2、第4火曜日の午後1時から一宮スポーツ文化センターで行っています。

これからもアートフラワーが出来上がったときの喜びを多くの方に知っていただき、一緒にお稽古が出来ればと願っています。是非一度、教室をのぞいて見て下さい。



「水草たち」北澤美術館にて

【問合せ先】木村 房子 ☎45-0241

私達の会は絵という共通の趣味を深め、互いの親睦をはかることを目標に掲げ、旧尾西市の市民講座で学んだ人達を中心に水彩画教室を立ち上げました。今年で6年目になり、現在は男性5名、女性10名になります。

毎月2回、木曜日の午前中に尾西南部生涯学習センターで小川護先生の熱心なご指導のもと、趣味で描く段階から一人ひとりの心の中の思いを白い紙の上に描き上げるという考えで各自頑張っています。良い作品を描くために悩むこともありますが、先生のポイントを得たアドバイスや仲間とのちょっとした会話からヒントを得て、納得のいく作品が出来上がったときの喜びは格別です。

発表の場として、春に三岸節子記念美術館にて先生の門下5グループが合同で開催するMORE展を、秋には尾西歴史民俗資料館でパレット水彩画展を開催しています。また、今年から地域との

交流をより深めたいとの思いから老人保健施設にお願いし、作品を展示させていただいています。会員だけではなく地域との交流を深めていくことは、絵を描くために大切な経験になっていくと思います。

これからも生活の一部に絵を描く時間を持つことで豊かな気持ちで、楽しい人生を送りたいと思ひ毎日頑張っています。



MORE会合同懇親会

【問合せ先】後藤 昇一 ☎62-5329

加入団体の紹介

藤乃会 尾西教室 (ふじのかいびさいきょうしつ)

(邦楽部門)

日本の伝統楽器の箏は龍の象徴とされ各部の名称には龍頭、竜尾などと呼び名がある美しい楽器です。

その凜とした音や擦り爪の「シュツ」という音、演奏で自然に姿勢が正される奏者からは、観ても聴いても「和」が感じられます。

「さくらさくら」や「六段の調」「みだれ」など皆さんよくご存知の古曲から最近作られた新曲まで、あらゆるジャンルの曲を皆で合奏して楽しんでいます。

お稽古はマンツーマンで都合の良い時間に月数回、お子さんにはお稽古の始めと終わりにご挨拶をすること、座布団の返し方など日本人として知っていてほしい行儀・作法も同時にお教えしています。小学校1年生の可愛いお子さんから七十代の方まで年齢層は幅広く、なごやかにお稽古に励んでいます。

一年半に一度、尾西グリーンプラザで発表会も開催し、日頃の練習の成果を皆さんの前でご披露し、聞きに来て下さる方はもちろん、奏者である私たちも、笑顔で過ごせるよう頑張っています。他にも尾西芸能祭、三曲演奏会、もみじ祭りなどで演奏したり、岐阜県交響楽団とも共演しています。

皆さんも是非、私たちと一緒にお稽古を始めませんか。お待ちしております。



◀ もみじ祭りにて演奏

【問合せ先】五藤 房代 ☎62-8327

加入団体の紹介

扇寿々会 (せんすずかい)

(舞踊部門)

扇寿々会では、老若男女を問わず幅広い年齢層の会員達で、日々楽しく日本舞踊の稽古をしています。お稽古では古典的で伝統のある古典舞踊、江戸時代に歌舞伎の発達にともなって派生した歌舞伎舞踊、また演歌、歌謡曲、民謡といった現代に馴染みのある曲に振り付けを創作して踊る歌謡舞踊を行っています。

詩を身体全体で表現し、足腰を使い、心地よい汗をかき、振りを覚える為に頭も使います。身体と頭の適度な運動は、健康に良く老化防止に役立ち、皆がいつまでも元気でいられる大切なエッセンスになっています。

昨年は愛知県文化協会連合会西尾張部の芸能大会にも参加させて頂きました。普段は見る事が出来ない他の文化協会の発表は、私達の舞踊に対する情熱を更にかきたててくれる素晴らしいものばかりでした。また、今年の7月には中日劇場で

歌手“大月みやこ”の後ろで踊らせて頂きました。他にも毎年、11月に尾西市民会館で開催する尾西芸能祭にも参加したり、声をかけて頂いた介護施設や老人会でも踊りを披露しています。

見てくださる方に喜んで頂けるよう日々練習に励んでおります。ぜひ一緒に楽しんでみませんか。練習は毎週月曜日と土曜日の午後7時から向山公民館で行っています。



▶ 発表会後の記念写真

【問合せ先】横幕 房子 ☎73-7344

第69回

一宮市美術展

11月17日(木)～20日(日)まで、一宮スポーツ文化センターで「第69回一宮市美術展」が開催されました。

市内や近隣市町村を中心に、県外からも多数作品が寄せられ、出品者は617名で、審査の結果、入賞となった185点をはじめ、615作品が展示されました。

期間中は、約5,500人の方が会場を訪れ、作者の熱意・エネルギーを感じさせる多数の作品を熱心に鑑賞されていました。各部門で入賞された方は、次のとおりです。なお、同一賞内での掲載順は順不同です。

(敬称略)

日本画

審査員 星野哲弘

河村明美

市長賞

湯浅真奈美

教育委員会賞

山田勝利

市制90周年記念特別賞

藤塚章

美術展賞

佐久間友香 三矢菜穂子
青山トミエ 本多加代子

奨励賞

山田寿恵子 社本奈美
鈴木信子 星野真由

入選 37点

洋画

審査員

山田 彊 一
長谷川 侑

岩田 哲夫

後藤 泰洋

高山 悟

三輪 清弘

市長賞

林田 健 不破愛子

田中邦子

教育委員会賞

藤井 忍 桶川千秋

津金高浩 島津秀典

市制90周年記念特別賞

小澤富美子 水野 潔

浅野奈津子

美術展賞

富岡 僉治 吉川京介

草薙 桂子 今井 春子
森 たみよ 水巻 久美子
祖父江 和子 森 健次
鈴木 由雄 河 奇 緑子
石原 孝一 成 瀬 弘子
田中 道弘 木 村 隆行
吉村 玉三郎 尾 関 秋 隆
木村 周子 井 上 美 恵子
荻 須 映子 大 野 紀 史
永井 弘人 関 節 子



洋画部門解説

奨励賞

酒井 美江 浅野 なつ子
香川 絹代 竹 内 保 彦
日野 絹枝 高 田 国 光
荒 深 てるみ 永 井 千 里
江崎 武夫 河 村 治 夫

彫刻・立体

入選 189点

鈴木 光男 加藤 俱子
石 黒 三 雄 久 田 千 恵 子
戸 松 佐 代 子 柴 田 順 子
大 島 裕 子 田 仲 富 美 子
石 神 葉 子 馬 場 越 子
梅 津 諭 山 崎 正 春
加 納 静 子 徳 田 泰 弘
前 田 い さ 子

審査員

森 克彦
櫻 井 真 理

市長賞

川上 堯 由

教育委員会賞

堀 部 美 奈 子

市制90周年記念特別賞

犬 飼 知 沙

美術展賞

水 谷 三 四 士

奨励賞

安 部 鈴 菜

入選 17点

工芸

審査員

加藤 陽 児
鵜 飼 辰 郎

市長賞

小 河 敦 子

教育委員会賞

加藤文太郎

市制90周年記念特別賞

長田あかね

美術展賞

伊藤英正

小崎陽一

奨励賞

加藤陽子

多治見正勝

入選 38点

白石信雄
吉川てい

教育委員会

柳瀬文香

市制90周年記念特別賞

佐橋広美

美術展賞

岩田修作

石井佳代子

奨励賞

佐久間直子

石居里佳

入選 35点

三輪双葉
碓氷綾加

書

審査員

中林路風

土屋陽山

亀山雪峰

武山翠屋

則武穹

安藤蘇道

田代春苑

山田杏華

市長賞

酒井淑婉

岩田波鮮

教育委員会賞

畑田裕子

山田紅照

後藤庭華

市制90周年記念特別賞

近藤由果

平松豊泉

デザイン

審査員

源安孝
岡崎美穂

市長賞

川合愛莉



彫刻・立体部門解説

美術展賞

長崎成秀

内出紅華

吉田禎常

五藤梅艶

牧田恵清

岩田展穂

内藤春翠

安藤静歩

林弥寿子

可児長望

伊藤恵里

今井恭子

小島華扇

加藤瑞頭

梅村真毬

後藤柳月

五十嵐游燕

岩田佳川

野田智子

谷本義仙

森環翠

倉光枝芳

井内溪舟

戸本有荷

林華静

櫻井瑩月

尾関明美

岩田彩華

入選 203点

写真

蜂須賀秀紀

丹羽正仁

夫馬勲

光田せいすけ

市長賞

青木尚子

長谷川篤江

古澤光生

春日井義三

浅野英次郎

千田陞末

日比憲宏

中村薫

原紹郎

渡部与明

小原勇二

高崎英美

今井要

岡田忠夫

鈴木正治

森田正路

大竹瑞光

渡邊水香

阿部翠祥

大橋幸子

平岩幸子

則竹松慶

高取春霞

入選 96点

写真

中辻義則

長谷川隆光

大矢真理子

橋本秀子

宮崎久仁子

櫻井悦子

田端勉

伊神ちよ

中山哲也

上津福三

安藤正一

佐野ルミ子

伊神ちよ

中山哲也

上津福三

安藤正一

伊神ちよ

中山哲也

上津福三

安藤正一

伊神ちよ

中山哲也

上津福三

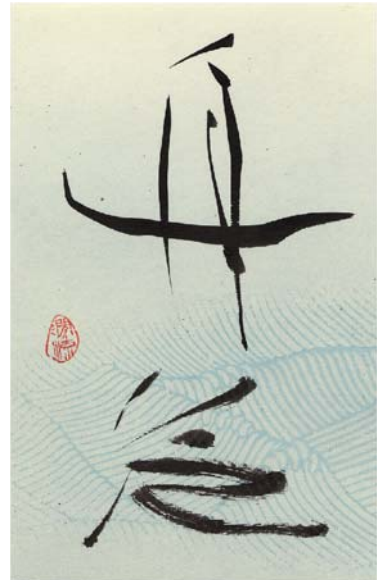
安藤正一

伊神ちよ

中山哲也

上津福三

文化情報



「舟泛」 岩田潤流

《市および市内公共施設の催し》

一宮市博物館
☎(46)3215

企画展「暮らしの中の民具」 ～竹細工～

日時 ● 1月7日(土)～2月26日(日)

午前9時30分～午後5時

(入館は午後4時30分まで、月曜休館、月曜日が休日の場合は翌日休館、以下同じ)

内容 ● 木・竹製のカゴ・ザルの歴史を紐解き、農家の副業として発展していった竹細工を、歴史を含めて紹介します。

※子ども向け「くらしの道具〜今と昔〜」も同時開催します。

観覧料 ● 一般 200円

高大生 100円

小中生 50円

※市内小中生・65歳以上無料(以下同じ)

「尾張平野を語る16」

日時 ● 2月5日(日)・12日(日)・19日(日)

午後1時30分～3時

内容 ● さまざまな分野の講師をお招きし、尾張平野の歴史と文化を紹介します。今回は、歴史諸科学が博物館を舞台にこれからの社会に何を提示できるかを考えます。

定員 ● 各回先着100名(当日整理券を配付)

※要常設観覧料

「民俗芸能公演」

日時 ● 2月26日(日)

午後1時30分～3時

内容 ● 指定無形民俗文化財の公演。

定員 ● 先着100名

※要常設観覧料

三岸節子記念美術館
☎(63)2892

冬のワークショップ

「ダンボールにんげんをつくらう」

日時 ● 1月7日(土)・8日(日)

午前10時～午後4時

講師 ● 大崎智仁氏

(造形絵画教室講師)

内容 ● ダンボールを切ったり貼ったりはがしたりして自分の好きな人形を作ります。

対象 ● 小学生～中学生

定員 ● 25名

参加料 ● 200円

※要申込み(詳しくはお問い合わせ下さい)。申込多数の場合は抽選。

せつこっこクラブ*1月 節子さんを歌おう

日時 ● 1月21日(土)

午後2時～4時

内容 ● 三岸節子の作品を見て感じたり、こと言葉に置き換え、短歌を詠んでみましょう。

講師 ● 小塩卓哉さん(中部日本歌人会委員長)

対象 ● 小学2年生～中学生(保護者の参加可)

定員 ● 15組

※参加費無料・要申込み(詳しくはお問い合わせ下さい。)

特別展「マリー・ローランサンとその時代展」

日時 ● 1月28日(土)～3月11日(日)

午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで、月曜休館、以下同じ)

内容 ● 20世紀初頭のパリで生まれた画家ローランサンらと、日本人画家たちが交錯した時代をご紹介します。

観覧料 ● 一般 800円

高大生 400円

小中生 200円

※市内小中生・65歳以上無料

関連事業 講演会

日時 ● 2月4日(土) 午後2時～

テーマ ● 喝采と夢想の影〜パリの画家マリー・ローランサンとその時代

講師 ● 富安玲子氏(元マリー・ローランサン美術館学芸員)

ランサン美術館学芸員

会場 ● 美術館1階講義室

定員 ● 先着100名 ※聴講無料

レクチャー講座

日時 ● 2月25日(土) 午後2時～

テーマ ● バレエ・リュースの全貌～

その魅力をめぐって

講師 ● 芳賀直子氏(舞台研究者)

会場 ● 美術館1階講義室

定員 ● 先着100名 ※聴講無料

美術館ギャラリートーク

日時 ● 2月12日(日)・3月4日(日)

午後2時～

内容 ● 当館学芸員が見どころを解説します。

※要特別展観覧料・定刻に美術館受付前に集合

常設展 「三岸節子 桜に至る道程」

日時 ● 1月28日(土)～4月1日(日)

午前9時～午後5時

内容 ● 各時代の作品を展示し、桜の花を描くに至った画家の歩みをご紹介します。

観覧料 ● 一般 320円

高大生 210円

小中生 110円

※市内小中生・65歳以上無料

美術館講座「美術の学校5」

内容 ● 美術講座入門としてより楽しんでいただくため、様々な視点から楽しく、わかり

やすい講演会を開催します。

会場 ● 美術館1階講義室

定員 ● 各100名 ※授業料無料

美術実技講座

日時 ● 3月15日(木)・17日(土)・18日(日)・20日(火)・25日(日)

内容 ● 初心者を対象にした美術の講義と実技指導。様々な素材を使い、表現する楽しさを体験していただきます。

会場 ● 美術館2階実習展示室

定員 ● 16名

※要参加費・要申込み(詳しくはお問い合わせ下さい。)

尾西歴史民俗資料館

〒(62)9711

一宮市制90周年記念特別展

「のぎり屋根と毛織物」

日時 ● 2月4日(土)～3月25日(日)

午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで、月曜休館、ただし3月21日(水)は休館)

内容 ● 現代一宮の原風景になっっている「のぎり屋根工場」は、今でも全国一の数が残されている。毛織物とともに発展してきた過程を紹介。

観覧料 ● 無料

「のぎり屋根と毛織物」関連事業

ビデオ映画会「花咲く乙女たち」

日時 ● 1月29日(日)、2月26日(日)、3月25日(日)

午後1時30分～3時15分

内容 ● 旧尾西市を中心にロケが行なわれた日活映画(昭和40年)、出演 舟木一夫、山内賢、堺正章、西尾三枝子ら。

入場料 ● 無料(各回先着70名)

「懐かしSPLレコードコンサート」

日時 ● 3月20日(祝)

午後1時30分～3時30分

内容 ● 蓄音機で聴くSPLレコードの名曲を鑑賞。

入場料 ● 無料

一宮市民会館

〒(71)2021

「坂本冬美25周年コンサート」

日時 ● 1月29日(日) ①午後1時～②午後5時～

(開場は開演の30分前)

入場料 ● 6,700円

※全席指定・未就学児入場不可

「しまじろう ふしぎなもりのものがたり」

日時 ● 2月11日(祝)

①午前10時30分～

②午後1時～

③午後3時30分～

入場料 ● 1,500円

※全席指定・3歳以上有料

「ものまねエンターテイメント ロックコンサート」

日時 ● 2月19日(日)

①午後1時30分～

②午後5時～

(開場は開演の30分前)

入場料 ● 5,500円

「綾戸智恵コンサート」

日時 ● 2月26日(日) 午後3時～

(開場は開演の30分前)

入場料 ● 6,000円

「上原彩子 ピアノリサイタル」

日時 ● 3月18日(日) 午後2時～

(開場は開演の30分前)

入場料 ● 3,500円

(学生料金あり)

一宮市尾西市民会館

〒(62)8222

「138いちみんライブ」

日時 ● 1月22日(日)・3月4日(日)

午後2時～

(開場は開演の30分前)

入場料 ● 無料(要整理券)

「キッズのためのはじめての音楽会」

日時 3月31日(土) 午後2時

(開場は開演の30分前)

入場料 1,800円

(3歳未満入場不可)

青年の家

☎(73)2400

「ヤングフェスティバル」

日時 3月11日(日)

午前10時〜午後3時

内容 青年グループ活動発表会。

一般の方も自由にご覧いただけます。ご家族連れでもどうぞ。餅等振る舞いあり。

参加料 無料(内容により有料)

市経済振興課

☎(28)9130

「新春トップ講演会〜2012年の日本経済の展望と企業戦略〜」

日時 2月4日(土)

午後1時30分〜3時

(開場は30分前)

講師 門倉貴史さん(エコノミスト)

会場 一宮市民会館ホール

入場料 無料(要整理券)

※整理券は1月4日(水)より一宮庁

舎西玄関受付、経済振興課、尾西

庁舎西館1階受付、木曾川庁舎総

務管理課、各出張所、一宮市民会

館で配布。

市生涯学習課

☎(84)0012

「いちのみや女性のつどい」

日時 2月18日(土)

午後1時15分〜3時45分

講師 養老 孟司さん

会場 一宮市民会館

入場料 無料(要整理券、1月11

日(水)より配布)

一宮市

芸術文化協会

加入団体の

催し

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】

☎(45)8045

日時 12月25日(日)・1月22日(日)・

2月26日(日)・3月25日(日)

午後1時

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 自由吟および課題吟を一宮

川柳社委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料 無料

申込み 当日直接会場

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎(73)5504

日時 1月22日(日)・2月26日(日)・

3月25日(日) 午後1時

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 当季雑詠3句を一宮市民俳

句教室委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料 無料

申込み 当日直接会場

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(62)4654

日時 1月8日(日)・2月12日(日)・

3月11日(日) 午後1時

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 真清短歌会委員により実作

指導します。(初心者歓迎)

参加料 無料

申込み 当日直接会場

『新年短歌会』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(62)4654

日時 1月22日(日) 午後1時

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 なたでも(大会に先立ち

詠歌を提出)

参加料 500円

申込み 当日直接会場

『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(45)6702

日時 1月14日(土)・2月11日(土)・

3月10日(土) 午後1時

会場 葉栗公民館

内容 各自10句持参、互選により

優秀作を記録に残します。

(初心者歓迎)

参加料 無料

『平成23年度支部講演会』

【問合せ先 中部日本書道協会

一宮支部】

☎(73)3513

日時 3月4日(日)

午後4時〜5時30分

会場▼一宮スポーツ文化センター
講師▼中部日本書道会理事長
鬼頭翔雲先生

参加料▼無料（一般聴講歓迎）

『中日写協一宮支部 60周年記念写真展』

【問合せ先 一宮真澄クラブ】

☎(64)11800

日時▼12月22日(木)～25日(日)

午前9時～午後5時

(22日は午前12時から、25日は午後4時まで)

会場▼三岸節子記念美術館

入場料▼無料

『加入団体の催し』欄に情報を掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体の活動情報を募集します。掲載を希望される団体は、発行月3・6・9・12月の前月1日までに、下記の必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

必要事項

①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時
⑤会場 ⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他
必要事項

提出先

〒493-8511 一宮市芸術文化協会事務局
(住所不要)
またはFAX 0586-86-1809

愛知県文化協会連合会の催し（報告）

第36回 愛知県文連美術展

9月27日(火)～10月2日(日)、愛知県美術館8階ギャラリーを会場に文化協会相互の連携のもと、愛知県の美術文化の普及・振興と次代を担う有為な新人の発掘を目的に第36回愛知県文連美術展が開催されました。県下より多数の作品が応募され、313作品が入賞・入選に輝きました。

本協会からは【日本画の部】今枝由恵さん、尾池純子さん、瀧廣美さん、【洋画の部】江口和夫さん、成瀬弘子さん、長谷川千代子さん、



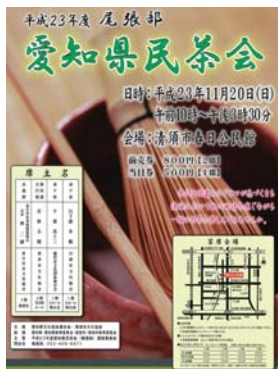
平野肇さん、山田紀代子さん、米津美代子さんが入選されました。また、【日本画の部】今枝昭さん、



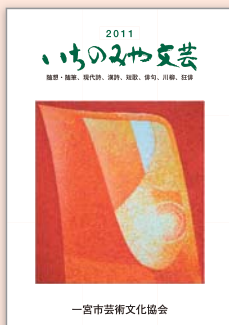
【洋画の部】加藤伸さん、山下久子さんが特選に、【洋画の部】江崎武夫さんが奨励賞に選ばれました。

愛知県民茶会（尾張部）

11月20日(日)、清須市春日公民館において、県民茶会が行われました。



『いちのみや文芸』 第40集を 刊行しました



10月15日(土)に「いちのみや文芸 第40集」を発売しました。随想・随筆、現代詩、漢詩、短歌、俳句、川柳、狂俳の7部門あわせて343名の方から寄せられた2565作品を掲載しています。

1冊800円で、一宮市役所木曾川庁舎（一宮市教育委員会生涯学習課内）にて販売しています。貴女も是非一度お読みください。

文化講演会

作家 落合恵子さん

『心豊かに自分を生きる』

10月15日(土)、一宮市尾西市民会館にて、文化講演会が開催されました。作家活動やラジオパーソナリティなどで活躍中の落合恵子さんをお招きし、「心豊かに自分を生きる」と題してご講演いただきました。

【講演要旨】

私は35年間、東京と大阪でクレヨンハウスという子供の本の専門店をやってきました。そのクレヨンハウスで、東北大地震で被災した方々に向けて私達は何が出来るか、若いスタッフも含め会議をしました。阪神淡路大震災の時もそうさせていただきましたが、傷ついた子供達のことをそっと抱きしめてくれるよ



うな絵本を贈ろうということに決まりました。

まずは倉庫に行つて、クレヨンハウスは小さい出版社もやっていますから自分達で出してきた本を何十個、何百個とダンボールに詰め、いつでも発送出来るようにしました。続いてお取引のある子供の本の出版社にご連絡をさせていただいて「次のような活動を私達にはいたしません。できましたら本のご寄贈をお願いいたします。」とお願いました。これが10月2日(日)付けの中日新聞に載った「私のハグの力」という原稿の大元「ハグ&リード」と名付けたプロジェクトのスタートでした。

東北地方の冬は早い。そして雪も早い。外で遊べなくなった子供や一人残されたお年寄り達が、絵本があることによって、もしかしたら大きくは変わらなけれど、ゆったりとした気持ちで絵本の中のひとつの文字を追い、絵本の中の一枚の絵を味

わつてくれる瞬間が必要だと思いい、ずっとお送りしています。

ダンボールの一番上に各地から寄せられた被災地の方々へのメッセージも載せています。これはクレヨンハウスの各フロアに手作りの短冊を置いて「もしよろしかったら被災地の方に一言書いてください。」とお願したものです。「絵本の中では全てが自由です。何だって出来ますし、どこにだって行けます。そうして絵本からもらった元気を現実の世界の中できつと活かしてください。どうぞ頑張りすぎないで下さい。」「本を手にして下さったあなたへ。本は元気にしてくれたり、勇気をくれました。言葉の力を私は信じています。」「I am on your side. いつだってあなたの味方だよ。」「

4月の半ばになってから、これらメッセージを箱に入れて第一便をスタートさせました。ちよっと胸が高鳴りました。このトラックが何とか無事に走って行ってくれよ。そういう気持ちでスタートしました。

このことをクレヨンハウスの

ホームページで書いていると「絵本送りたいです。」「私の子供も小さい時読んで、そして私に孫ができたら読ませたいと思つて大事にとつていた絵本、小さいおうちです。一冊だけごめんください。」などのメッセージもいただきました。小学生が自分の学校の全生徒に呼びかけて沢山のダンボール箱を送つてくださった方もいて、次々に私達の倉庫は全国から送られた本たちで一杯になりました。

「この手紙を今、読もうとしているあなたへ、私が言える事はたった一つです。生きていてくれてありがとう。」と書いたメッセージももちろん一緒に入れて、ゆっくり、長く、傷ついた子供、お年寄りを抱きしめてあげてください。そして、もう少し余裕が出来たら、もっとゆっくり、もっと長く、お互いの体温を感じる距離で、本を読んであげてください。読んであげている大人も読むことによって、もう少し肩の力を抜ける日がいつか来ると思います。これが私達のプロジェクト「ハグ&リード」です。

[題 字] 武 山 翠 屋
[編集・発行] 一宮市芸術文化協会

[連絡先] 一宮市芸術文化協会事務局 (市教育委員会生涯学習課内)
〒493-8511 愛知県一宮市木曾川町内割田一の通り27番地
TEL 0586-84-0013 / FAX 0586-86-1809